

貴方の知っている“愉快”、教えて下さい...



真夏の書齋、百物語。

九州遊会 × 書齋ワーカー

平成二十五年八月十七日 書齋ワーカー エスパス

by 瓢箪座

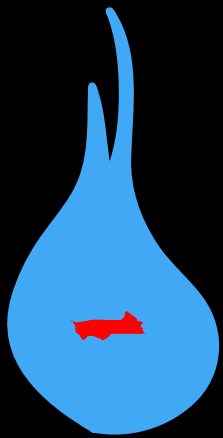
おねがい



本来、「百物語」は、夜通しで語り合うものですが、
本日はたった**四時間で九九の本の話**をすることになります。
かなりタイトな進行となりますので、ご協力をお願いします。

【本を紹介する方へ】

- ・前に出てご紹介ください。順番は一覧表に記載しています。
- ・**一冊につき一分三〇秒**でご紹介いただきます。
時間になりますと、**お鈴**が鳴ります。そこで終了です。
- ・あらすしは、こちらで簡単に読み上げます。
そのあと「**コゴが怖い!**」と思うポイントをコメントしてください。
- ・初めて本を紹介するときは、
簡単な自己紹介（お名前、ご職業など）を添えてください。



選者

中野由紀昌
瓢箪座・九天玄氣組



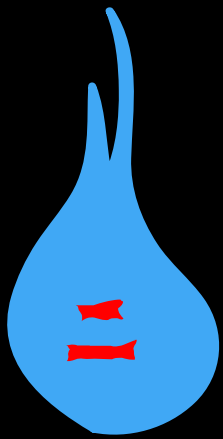
百物語

杉浦日向子 著 (新潮社)

江戸文化研究の杉浦日向子さんが送る百物語。江戸の時代に生きた魑魅魍魎たちと人間の、滑稽でいとおしい姿。懐かしき恐怖を怪異譚集の形をかりて漫画で描いたあやかしの物語。

ここがこわい!

一話がたった7ページ足らずの短編漫画集。ページをめくると、すうっと江戸時代にトリップします。江戸の暮らしは“あやかし”とともにあったのです。幼いころ、それとなく感じていたはずの“気配”、それを感受するアンテナをゆさぶってくれそうな一冊です。



選者

畠山裕海

操作ブラクティシヨナー師範代
操体法東京研究会



うらめしや 3巻

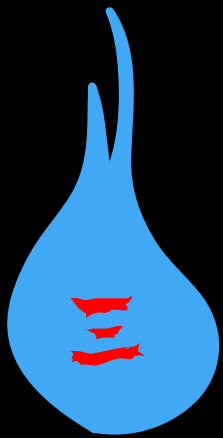
魔木子 (双葉社)

お江戸に起こる怪異 (妖怪魑魅魍魎エトセトラ) の類いを霊力をもって解決する「うらめしや」の「お妖」が活躍するお江戸ミステリー。

夏の夕刻、若い女がお妖と佐治 (さじ。お妖の相方) のところにお夏という若い女房が訪れてくる。お夏はお妖に、谷中に住む夫、元六が主宰する百物語で怪談を話して欲しいと頼む。丁度一年前にも「百物語」をやったのだが、七十六話で火事が起こって中止になり、今度は百話終わらせたいという。お妖と佐治は谷中の元六の家へ向かい、百本の蠟燭が灯った部屋で、百物語を始める。そして、百話目はお妖の番。百話目が終わって一体なにが起こるのか？

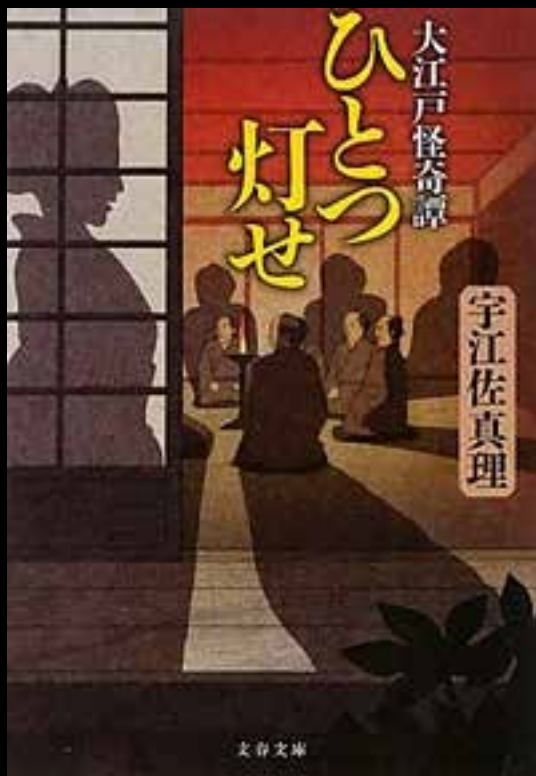
ここがこわい!

全体的にほのぼのと怖い。怖いけれど、江戸情緒が感じられる、シリーズの中でも好きな逸話。



選者

寺田悠人



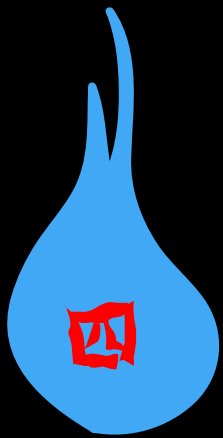
ひとつ灯せ 大江戸怪奇譚

宇江佐真理（文春文庫）

百物語をテーマにした怪奇譚。ほんとうにあった怖い話だけを披露する集まりに顔を出すようになった清兵衛。やがて話の会の各々の身にも奇妙な出来事が起こりはじめ…

ここがこわい！

初めは怪異を語っていたメンバーが、
次々と実際の怪異の餌食となっていく過程が怖いです。



選者

川崎隆章

ラジオ番組制作・
落語CDディレクター
九天玄氣組（東京）



たちぎれ線香 「古典落語（続）」より

興津 要（講談社）

芸者の小糸に入れこんで大金はたいた若旦那が80日蔵に幽閉される。その間、小糸から手紙が届くが、蔵から出たとき、最後の一通に目を通すと「今生にてお目にかかれまじくそろ かしく小糸」とある。若旦那への恋煩いで、すでに命絶えていたのだ。仏壇に手を合わせたその瞬間…

ここがこわい！

おどろおどろしさを徹底的に排除し、一点の美を恐怖に置き換えた異色作。文で読むより聴いたほうが怖い。高座で演じられるときは、小糸の仏壇のシーンで実際に下座から三味線と唄が聞こえてくる。ここをいかに怖くも美しく聴かせるかが演者の腕。

★CD「特選!! 米朝 落語全集 第二集」には、桂米朝演による上方版の「たちぎれ線香」があるが、CD化されている中では評価が高いもの。

五

選者

財津晶子



ぼっけえ、きょうてえ

岩井 志麻子 (角川書店)

岡山の遊郭で醜い女郎が客に自分の身の上を語り始める。間引き専門の産婆を母にもち、生まれた時から赤ん坊を殺す手伝いをしていた彼女の人生は、血と汚辱にまみれた地獄道だった…。

ここがこわい！

コレラが流行っている田舎の村での話になりますが、
なんだか不気味で全部読めないくらい怖かったです。

六

選者

有座まさよ
折り紙建築士



かようびのよる

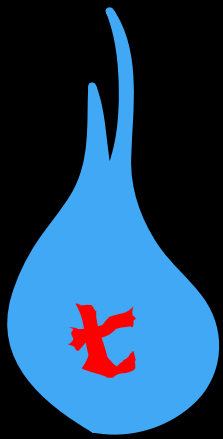
デヴィッド・ウィーズナー, 当麻ゆか 訳
(福武書店)

火曜日の夜8時頃、カエルの乗った蓮の葉が無数に宙に浮かび、町へ向かって飛び始めます。空をいっぱい埋め尽くす、葉っぱに乗ったカエル達。家の脇を抜け、干したままの洗濯物に引っかかり、あちこち飛び回ります。テレビをつけたまま眠ってしまったおばあさんの家ではカエル達がテレビを見ています。夜明けとともにカエル達は地に落ち、もどいた沼に向かってはねて帰ります。

ここがこわい!

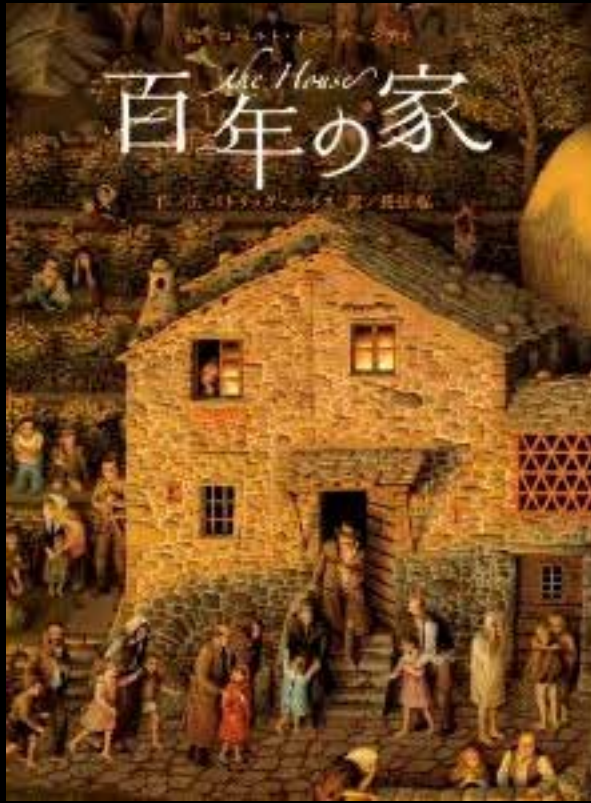
翌週は何が飛ぶ?

朝になって、町では警察が現場検証を開始。でも一体何がどうなったのかさっぱりわからない様子。そして次の火曜日の夜7時58分、空を飛び始めたのは・・・?



選者

有座まさよ
折り紙建築士



百年の家

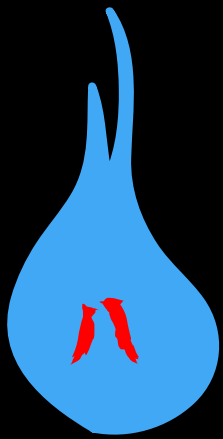
J. パトリック・ルイス, 長田弘訳 (講談社)

一軒の古い家が自分史を語る。結婚、戦争、収穫、死、人間の営みが静かに語られる。

～自然豊かななかで、作物を育てる人々と共にある家。幸せな結婚を、また家族の悲しみを見守る家。やがて訪れる大きな戦争に傷を受けながら生き延びる家。そして、古い家と共に生きた大切な人の死の瞬間に、ただ黙って立ち会う家。ページをめくることに人間の生きる力が深く感じられる傑作絵本がここに…。人が家に命を吹き込み、家が家族を見守る。家と人が織りなす百年の歲月。

ここがこわい!

「1973年今までの暮らし方を継がない。それが新しい世代だ。」



選者

犬井

由紀子



血の伯爵夫人 エリザベート・バートリ

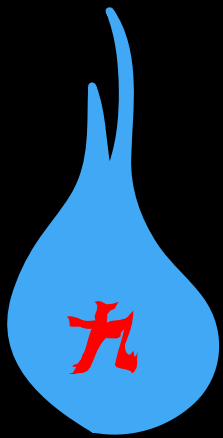
桐生 操 (桐生操文庫)

若い娘の血よ、そのみずみずしい息吹を私に与えておくれ。この肌を若返らせ、潤し、活気を与えておくれ!

—己の美貌と若さの秘薬と信じ、六百余人の乙女を虐殺し、その血を浴びた“血塗れ伯爵夫人”。虚しい結婚生活、夫の死と悪魔の誕生、戦慄の娘狩り、陶醉と引き換えの破滅、孤独な死…中世ハンガリーを震撼させ、歴史の闇に堕ちた女の心の荒廃と凄惨な生涯を、緻密な筆致で描く傑作評伝。

ここがこわい!

ハンガリーウォーターの物語で出てくるエリザベスは1305年～1380年のエルジュビエタ・ウォキェトクヴァナ。血の伯爵夫人は1560年～1614年のバートリ・エルジェーベト。どちらも「若返りたい」という願望が強かった方々なのですが、追求の方向性の違いで全く違うところに行ってしまう…ので。人の欲は何よりも怖いモノだと思います。



選者

畠山裕海

操体プラクティシヨナー師範代
操体法東京研究会



魔女の刻 (とき)

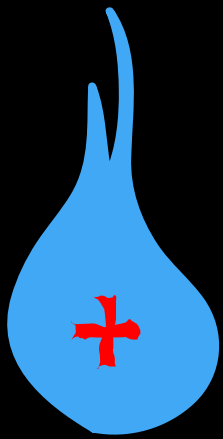
アン・ライス (徳間文庫) 全4巻

美貌の女医、ローアン・メイフェアは、サンフランシスコで養父養母に育てられる。が、生みの母は廃人として、ニューオリンズのメイフェア家本家に幽閉されていた。彼女は13代続くメイフェア家の魔女、その中でも「力のある魔女」だったのである。ローアンが自分の「力」に気づいたのは、ローアンが激怒すると、その相手が死に至ることだった。

アイルランドの初代魔女、スザンヌ・メイフェアは、荒野で悪霊、ラシャーを呼び出した罪で火あぶりにされる。悪霊ラシャーは、スザンヌの娘、デボラに受け継がれる。メイフェア家は、黒魔術と悪霊の力、そして近親相姦によって巨大な富を築いてゆく。悪霊ラシャーは、自らの肉体化を図る。それは、ローアンと自分の間に子を作り、その子の肉体を自らのものにしようという陰謀である。

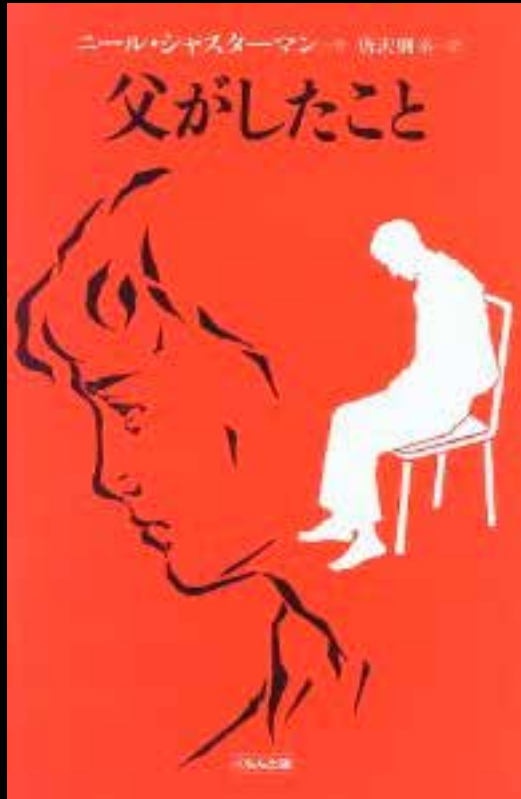
ここがこわい!

全体的に怖いです。何が怖いかというと、「血」「生殖」「近親相姦」「悪霊」「殺人」という、血なまぐさい話(本当に血なまぐさい)が延々と続きます。男性で「これ、ダメだ～」という人もいました。



選者

有座まさよ
折り紙建築士



父がしたこと

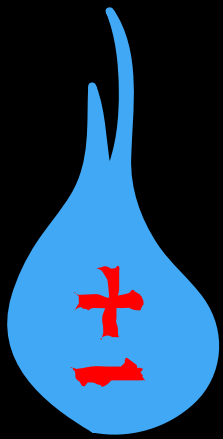
ニール・シャスターマン、唐沢則幸 訳（くもん出版）

子ども達と祖父母と、妻を殺した夫の再生の話。
実話。

～11歳のプレストン・スコットは、フットボールと陸上がとくいで、パパとは親友のように仲よしだ。最近、大好きな両親の“果てしのない夫婦喧嘩”が激しさをましてきたことに心を痛めている。そんな彼の心をいつも暖かく癒してくれるのは、おじいちゃんとおばあちゃんだ。そして、あの三月の木曜日…。ごく普通の家族に起こった痛ましい悲劇と、その絶望の淵から立ちあがり、悲しみや怒り、憎しみなどを克服した家族の“絆”を描く、感動の愛の物語。

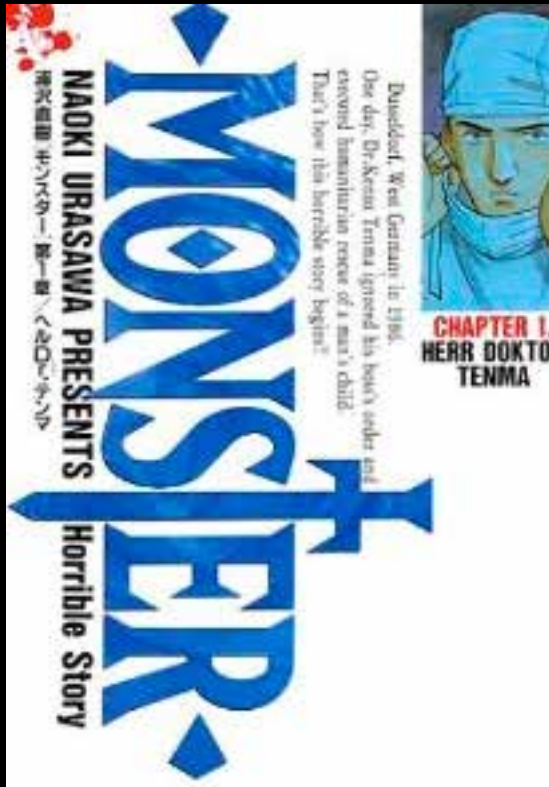
ここがこわい！

世界中の誰よりも愛してる人を同じぐらい強く憎むと
いうのがどんな気持ちか…



選者

真東 寿
九天玄氣組 (東京)



モンスター

浦沢 直樹 (小学館)

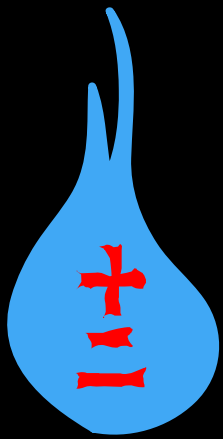
天才脳外科医の天馬賢三がヨハン リーベルトという少年を救ったことから話が始まります。そして、ヨハンは病院から謎の失踪をとげ、九年がたちます。

天馬のもとに運ばれたある銃前破りを殺すためにヨハンは姿を現します。そして目的をとげ、死んだ銃前破りをみて呆然とする天馬の横を微笑みを浮かべ通りすぎるヨハン。ここからヨハンの怪物性の由来と謎を探る天馬の冒険が始まります。

ここがこわい!

何と言ってもヨハンです。美青年で頭脳明晰ですが、何かが決定的に欠けており、それが彼の怪物性を加速させている気がします。暴力的な冷酷さを遙かに超越した怖さがあります。

※ドストエフスキーの『悪霊』を読んだ方は、それを思い出すと理解が深まるかと存じます。



選者

富山裕海

操体プラクティシヨナー師範代
操体法東京研究会



白い影法師

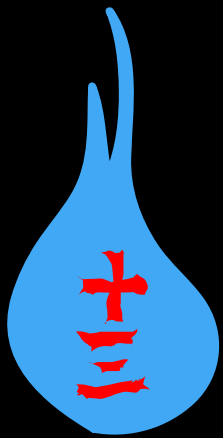
美内すずえ（白泉社）

転校生の涼子（すずこ）は、教室の窓際から4列目の席が空いていることに気づく。そこは何年も前から誰も座らない席。その席で死んだ小夜子という生徒。そしてその席にまつわる怪異。涼子は小夜子の霊に取り憑かれる。除霊のため、涼子は小夜子の霊に挑むが？

ここがこわい！

最後、机の下から「出てくるところ」。

この本でいうと242ページです。これは、ビジュアルでコワイのです。



選者

料理研究家
山際千津枝



灰暗い水の底から

鈴木 光司 (角川ホラー文庫)

～巨大都市の欲望を呑みつくす圧倒的な「水たまり」東京湾。ゴミ、汚物、夢、憎悪…あらゆる残骸が堆積する湾岸の「埋立地」。この不安定な領域に浮かんでは消えていく不可思議な出来事。実は皆が知っているのだ…海が邪悪を胎んでしまったことを。「リング」「らせん」の著者が筆力を尽くし、恐怖と感動を呼ぶカルトホラーの傑作。

ここがこわい！

これ定番ですよ！ あらすじ書くのも怖い…

十四

選者 有座まさよ
折り紙建築士



こそだてゆうれい

さねとうあきら 文、いのうえようすけ 画
(教育画劇)

飴屋に七晩女が飴を買いに来る。
七晩目飴屋主人があとをつけると墓の中から
赤坊の泣き声が…

ここがこわい!

「あめだまをしゃぶりしゃぶり あかんぼうは にかにかわらっていたそうです。」

十五

選者 有座まさよ
折り紙建築士



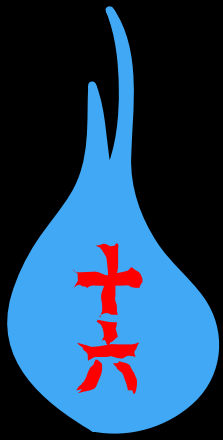
三まいのおふだ

おざわとしお 再話、かないだえつこ 絵
(くもん出版)

小僧が山姥の小屋から抜け出し三枚のおふだ
を使って難を逃れる話。

ここがこわい!

「小僧の尻をぽつんと引くきっちゃ食い、ぽつんと引くきっちゃ食いしました。」



選者

松田
一朗



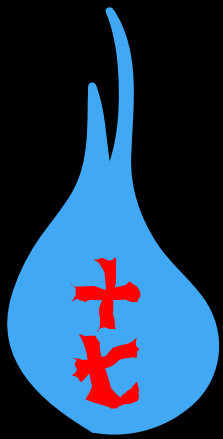
魍魎の匣

京極夏彦 / 講談社

連続バラバラ殺人事件が発生し、複数の手足が発見される。しかし、顔や胴体部分は見つかっていない……少女達が殺された真相とは。憑き物落し京極堂が謎を解きほぐしていく。

ここがこわい！

「みつしり」……この言葉が怖い(>_<)



選者

編集工学機動隊ギア代表
太田剛



イビザ

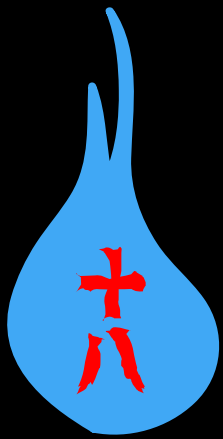
村上 龍 (講談社)

精神病院を退院し、三日後に出会った『先生』とパリに来たマチコは、ひとり飛び出し「自分と向かい合う」ための旅を続ける。

背徳的で淫靡な生活に幻惑され、姦淫、交霊、殺人、愛・・・様々な経験をしていくマチコに、「イビサへ」と囁く老婆。そして今、マチコはイビザにいる。

ここがこわい!

なんというか退廃的というか破滅的というか、どんな淫猥・快樂・残酷・アブノーマルな状況を前にしても、自分の存在を突き放し、さらに深みに堕ちていこうとするマチコ。その自己の魂の居場所を求めて彷徨うマチコが、最後にたどり着いた平穏の場があまりに怖い!



選者

壺中堂
オカルト倶楽部
九天玄氣組

新部 健太郎



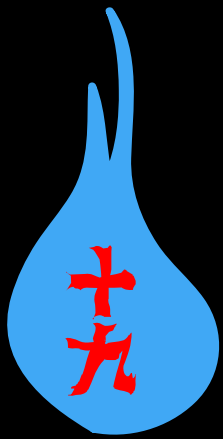
不安の立像

諸星 大二郎 (集英社)

現代人、もしくは都市生活者の抱える漠然とした不安を独自のタッチで漫画化、物語化した諸星大二郎の代表作。

ここがこわい!

誰もが記憶の片隅で抱える不安の立像、異常性を、顕在化、劇画化。
それを目の前に突きつけられる恐怖…

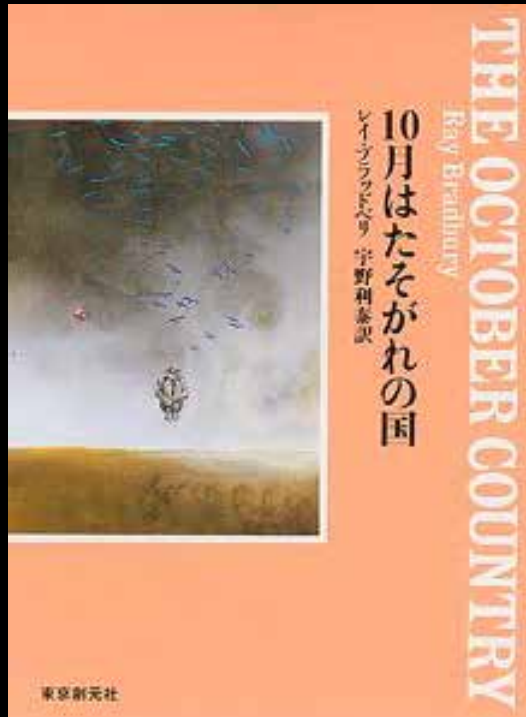


選者

内倉 須磨子

(有) スーパーハンド

九天玄氣組(北九州)



10月はたそがれの国

レイ・ブラッドベリ 著、宇野 利泰 翻訳

(創元 SF 文庫)

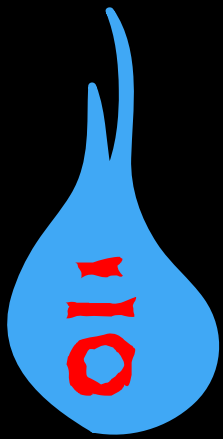
どの短編もゾクリと鳥肌が立つものが多く、怪奇好きにはたまらない作品です。

～ポオの衣鉢をつぐ幻想文学の第一人者、SFの抒情詩人ブラッドベリの名声を確立した処女短編集「闇のカーニバル」全編に、新たに五つの新作を加えた珠玉の作品集。後期のSFファンタジーを中心とした短編とは異なり、ここには怪異と幻想と夢魔の世界がなまなましく息づいている。

ジョー・マグナイニの挿絵十二枚を付す決定版。

ここがこわい！

「みずうみ」「波がぼくを、この世から、空飛ぶ鳥から、砂浜に遊ぶ子供たちから、岸辺に立つぼくの母から切りはなした。やがてまた、波はぼくをかえしてよこした。」



選者

有座まさよ
折り紙建築士



闇の守り人

上橋菜穂子（偕成社）

バルサは、汚名を来たままのジグロを吊うために命を狙われる生まれ故郷にもどってきた。ルイシャ贈りの儀式に関わる事になる。

～女用心棒バルサは、25年ぶりに生まれ故郷に戻ってきた。おのれの人生のすべてを捨てて自分を守り育ててくれた、養父ジグロの汚名を晴らすために。短槍に刻まれた模様を頼りに、雪の峰々の底に広がる洞窟を抜けていく彼女を出迎えたのは——。バルサの帰郷は、山国の底に潜んでいた闇を目覚めさせる。壮大なスケールで語られる魂の物語。

ここがこわい！

「あの王は、恐ろしいやつだ。やつは、兄を殺して王位を奪っただけじゃない。次の世代をになう、各氏族の最高の若者たちをも、いっぺんに殺してしまう、上手い口実をみつけたのさ。」

店内にあるヨ〜...



書齋ワ・ぶる

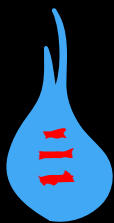
書店員

おすすめの本

怖い本

ベスト

ベスト100



蛇棺葬

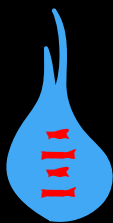
三津田 信三 (講談社)

怖さ ★★★★★★

選者：松崎 美恵子

あらすじ

幼いころ父に連れて行かれた百巳家。そこには無気味な空気を漂わす<百蛇堂>がある。私はそこで見たのだ。ずるっ…ずるっ…と暗闇を這うそれを……。やがて旧家に伝わる「葬送百儀礼」の最中に、密室状態の堂内から忽然と父が消える。屍体に取り憑く魔物の仕業か？ 日本の怪異に背筋が凍る、傑作ホラー ジャパネスク



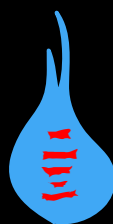
ミステリ作家の読む本 (上,下)

三津田 信三 (講談社)

怖さ ★★★★★★

選者：松崎 美恵子

本羅町一。地方都市の片隅に広がる妖しき空間に迷い込んだ三津田は、そこで古書店「古本堂」を見いだす。ある日、親友の飛鳥信一郎を伴って店を訪れた彼は、奇怪な同人誌『迷宮草子』を入手する。その本には「霧の館」を初め、七編の不思議な作品が収録されていた。



ゴーストハント 1~7巻

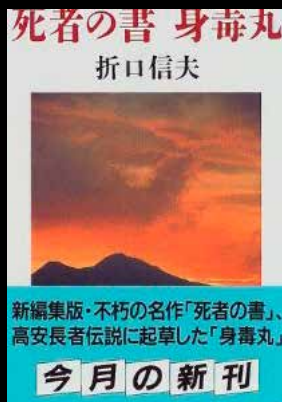
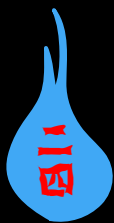
いなだ詩穂：漫画、
小野不由美：原作 (講談社)

怖さ ★★★★★★ キャラ★★★★★

選者：松崎 美恵子
財津 晶子

大人気「悪霊シリーズ」のまんが化第2弾！不気味に微笑む人形のミニーと、古い洋館には、悲しいひみつがかくされていた…。

幽霊の描き方や雰囲気がとても怖くて小学生の頃に読んだのに今でも印象に残っています。(財津さん)



死者の書

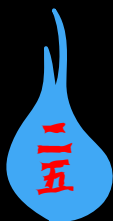
折口信夫 (中公文庫)

怖さ★★★★ 美しさ★★★★★

選者：松崎 美恵子

あらすじ

古墳の闇から復活した大津皇子の魂と藤原の郎女との交感。古代への憧憬を啓示して近代日本文学に最高の金字塔を樹立した「死者の書」



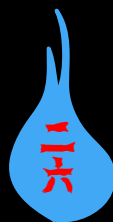
夜市

恒川 光太郎 (角川書店)

怖さ ★★★ 郷愁 ★★★★★

選者：松崎 美恵子

何でも売っている不思議な市場「夜市」。幼いころ夜市に迷い込んだ祐司は、弟と引き換えに「野球選手の才能」を手に入れた。野球部のエースとして成長した裕司だったが、常に罪悪感にさいなまれていた——



嗤う伊右衛門

京極夏彦 (中央公論新社)

怖さ★★★★ 愛★★★★★

選者：松崎 美恵子

生まれてこのかた笑ったこともない生真面目な浪人、伊右衛門。疱瘡を病み顔崩れても凛として正しき女、岩——四谷怪談は今、極限の愛の物語へと昇華する！

二七



鳥山石燕 画図百鬼夜行全画集

鳥山石燕 (角川書店)

怖さ★ フムフム★★★★★

選者：松崎 美恵子

かまいたち、火車、姑獲鳥、ぬらりひよん、狂骨…現代の小説や漫画でおなじみの妖怪たち。その姿形をひたすら描いた江戸の絵師がいた。あふれる想像力と類いまれなる画力で、さまざまな妖怪の姿を伝えた鳥山石燕の妖怪画集全点を、コンパクトな文庫一冊に収録。

二八



江戸の劇画・妖怪浮世絵 魑魅魍魎の世界

中右 瑛 (里文出版)

選者：松崎 美恵子

まさに劇画のルーツ、時代が生んだ魔界の世界である、妖怪浮世絵を紹介。国芳らを主とした冒険劇画、豊国・国貞・北斎らの幽霊怪奇芝居絵などを取り上げる。上製本であった前著をソフトな表紙に衣替えし刊行する。

二九



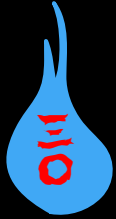
ゴースト・ハント

H・R・ウェイクフィールド 著、
鈴木克昌ほか翻訳 (東京創元社)

選者：松崎 美恵子

幽霊屋敷訪問の様子を実況するラジオ番組のリポーターが訪れたのは、30人にも及ぶ自殺者を出したという異様な来歴を秘めた邸宅だった…。極限の恐怖を凝縮した代表作。

あらすじ

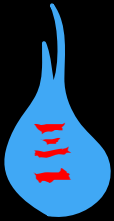


松井冬子 1

河出書房新社 (エディション・トレヴィル)

選者：松崎 美恵子

視覚によって覚醒される痛覚の美学！攻撃的恐怖と苦痛への偏愛を標榜し松井冬子が日本画の深部に突き立てた美しき〈視痛覚のバロック〉。大学及び大学院での制作を中心に本画・下図等を収録。



地獄堂霊界通信 1

香月日輪 (講談社)

選者：松崎 美恵子

「イタズラ大王三人悪」。7つし、リョーチン、椎名は、町内にその名が轟く、史上最強の小学生トリオ。曲がったことは大きらい。理不尽な高校生や、けちなチンピラはぶっとばす頼もしさで、人望もすこぶる厚い。そんな3人が、街のはずれにある怪しい薬屋「地獄堂」のおやじと出会い、不思議な事件が次々に起こる。そして、7つしたちの前に、不思議な世界への扉が開け放たれた—。

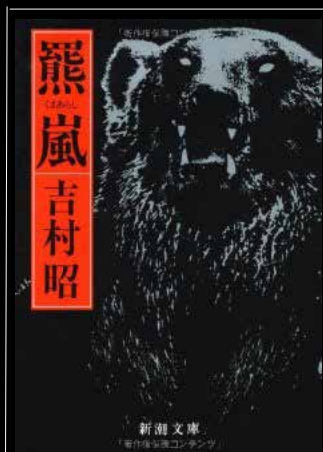
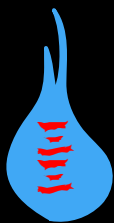


北斎妖怪百景

京極夏彦 (国書刊行会)

選者：松崎 美恵子

妖怪か、芸術か。葛飾北斎の妖怪が大集合。錦絵、肉筆画、読本挿絵、北斎漫画、化物和本草…、北斎の書きつけた異形のほとんどを収録した妖怪百景。



熊嵐

吉村 昭 (新潮社)

選者：松崎 美恵子

あらすじ

北海道天塩山麓の開拓村を突然恐怖の渦に卷込んだ一頭の熊の出現！日本獣害史上最大の惨事は大正4年12月に起った。冬眠の時期を逸した熊が、わずか2日間に6人の男女を殺害したのである。鮮血に染まる雪、熊を潜める闇、人骨を齧る不気味な音……。自然の猛威の前で、なす術のない人間たちと、ただ一人沈着に熊と対決する老練な猟師の姿を浮彫りにする、ドキュメンタリー長編。



うしろの百太郎

つのだじろう (講談社)

選者：本田 賢吾

心霊科学を研究する父・後健太郎の下で、息子・後一太郎は様々な超常現象を体験していく。時には生命の危険に晒されることもあるが、一太郎の主護霊である百太郎によって難を逃れる。また、人間の顔を持ち、テレパシーで会話も出来る霊能犬・ゼロの協力によって様々な超常現象を解明していく。



肉筆幽霊画の世界

安村 敏信 (新人物往来社)

選者：本田 賢吾

円山応挙、河鍋暁斎、月岡芳年など、江戸から明治の天才絵師たちが描き出した美しき恐怖。初紹介を多数含む全国各地の傑作幽霊画一〇〇点を収録した決定版。

三六



百鬼夜行絵巻の謎

小松 和彦 (集英社)

著者は、国内外にある百鬼夜行絵巻の伝本六十余の画像をすべて収集、それらの詳細な分析により、絵巻の成立と系譜の全容の解明をはたす。この発見と研究のプロセスを収録した本書は、妖怪研究第一人者による、百鬼夜行絵巻研究の決定版。

選者：本田 賢吾

三七



妖怪の通り道 俗信の想像力

常光徹 (吉川弘文館)

民間信仰・伝説・昔話・妖怪・幽霊・予言獣…。多様な民俗の中に見え隠れする俗信の姿と、そこから浮かぶ日本人の心意現象に迫る。

選者：本田 賢吾

三八

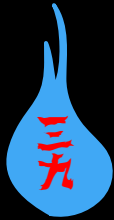


妖怪学の祖 井上圓了

菊地章太 (角川学芸出版)

明治時代、人々は狐憑きやコックリさんなどの怪現象に右往左往していた。若き哲学者の井上圓了は、それらに合理的な道筋をつけることこそが哲学普及につながると信じて奔走。柳田國男からは見地の違いから「井上圓了君には徹頭徹尾反対」と言われながらも、開学した「哲学館」(現東洋大学)で「妖怪学」の講義を行い、日本各地で膨大な怪異談を収集した。妖怪学者であり、哲学者、宗教改革者であった隠れた偉人、初の評伝。

選者：本田 賢吾



図説・死体論

布施 英利 (法蔵館)

あなたは自分がやがて死体になるという現実を忘れかけていないか？ 各紙誌絶賛の『死体を探せ!』ビジュアル版。死体が語るヒトの真実。

選者：本田 賢吾



座敷女

望月峯太郎 (講談社)

それはちょっとしたきっかけでしかなかった。呼び鈴、電話、合い鍵……その女は確実に俺に近づいて来る。逃げられない恐怖、果たして——。

選者：山元みき



ゲゲゲの鬼太郎

水木しげる全集 (講談社)

主人公の幽霊族の少年鬼太郎が妖怪達と繰りひろげる物語である。題名の由来は、作者が幼い頃に自分の名前を「しげる」と言えずに「ゲゲル」「ゲゲ」と言ったことから着想し、もう一つゲをつけたことによる。

選者：山元みき

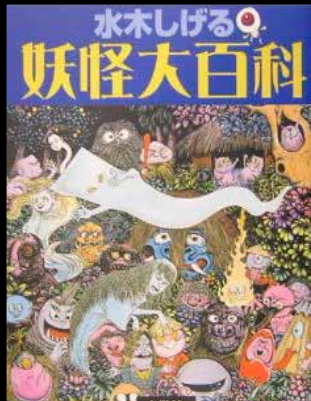


日本妖怪大辞典

水木しげる、村上健司 著
(角川書店)

選者：山元みき

水木しげるの“妖怪千体説”を基に、古から現代まで、全国津々浦々に跳梁跋扈し、語り継がれてきた妖怪たちを、この一冊に収めた“妖怪事典の決定版”。総項目数1592、水木しげるの妖怪画641点を収録。



水木しげるの妖怪大辞典 全6巻

水木しげる (東京堂出版)

選者：山元みき

「妖怪ってなに？どこに住んでる？妖怪はなぜこわい？妖怪も死ぬ？妖怪はいまもいるの？」など、数々の疑問に水木しげるが全面回答。

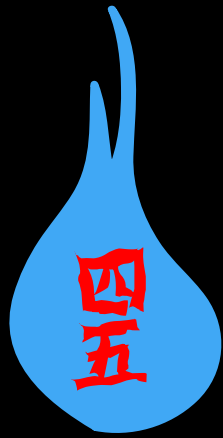


恐怖

梅岡かずお (小学館)

選者：山元みき

小学館初登場の傑作ホラー短編集。

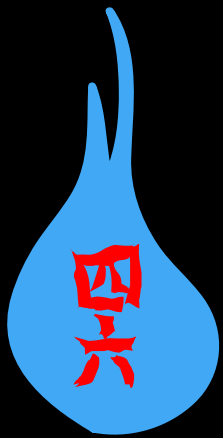


お祓い日和 その作法と実践

加門七海 (メディアファクトリー)

塩、香、鏡、石、水、砂、鏡、粧、食、浴、緑、音、幣と
13のお祓いアイテムの理念と実践方法が分かる。深くて広
いお祓いの世界をご紹介。

選者：松崎 美恵子



選者

越智環

若きウェルテルの悩み

ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ (岩波文庫)

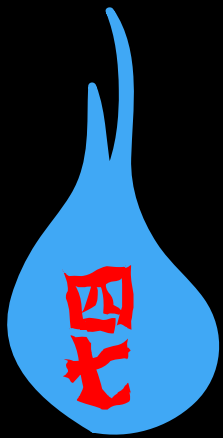


若きウェルテルは、新しい土地でシャルロッテという女性と出会います。しかし、彼女には婚約者が……。婚約者がいると知っても、彼女に惹かれ続けるウェルテルでしたが、婚約者が帰還することで希望は断たれます。

その後、ウェルテルは新しい土地に赴任するもうまく馴染めず、温かな思い出のあるシャルロッテのいる地に戻ります。しかし、シャルロットは婚約者と結婚しており、夫婦はウェルテルに冷たく接します。絶望したウェルテルは自殺を決意し、シャルロットの夫の銃で自殺します。

ここがこわい！

1774年に初版が発行され、当時ヨーロッパでは、ウェルテルの服装をまねる若者が多く出現するなど、大変なセンセーションを巻き起こしました。そして、服装にとどまらず、この本を片手にピストル自殺する若者も多数出ました。あまりに多数の自殺者が出たので、いくつかの国では発禁処分にするほどでした。単なる恋愛小説と思いがちですが、多くの血が流された怖い一冊です。ちなみに、日本でも翻訳本で同じように自殺者が出たそうです。国境も文化も超える、怖い一冊です。



選者

川崎隆章

ラジオ番組制作・
落語CDディレクター・
九天玄氣組（東京）



残像に口紅を

筒井康隆（中央公論社）

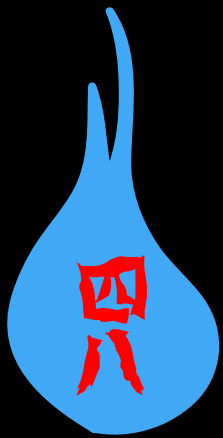
物語は小説家と編集者の会話から始まる。新しい作品のアイデアについて話し合った結果「章ごとに一字（=音）づつ消えてゆく」というルールで書かれることが決まった。そして編集者が「実は既に"あ"という字（=音）が消えているんだ」と明かす。その瞬間、世界から「愛」も「あなた」も消えてしまった。

自分の意思に関係なく世界から一文字づつ消えてゆく、言語化された存在が次々と消えてゆく。食べ物も、地名も、妻も娘もあいまいな残像を残して目の前から消えていった。社会は混乱しはじめるが、もはやそれを表現する言葉すら、この世から奪われてしまったのである。

ここがこわい！

初版では途中から袋とじになっており、後半は立ち読みできないようになっていた。

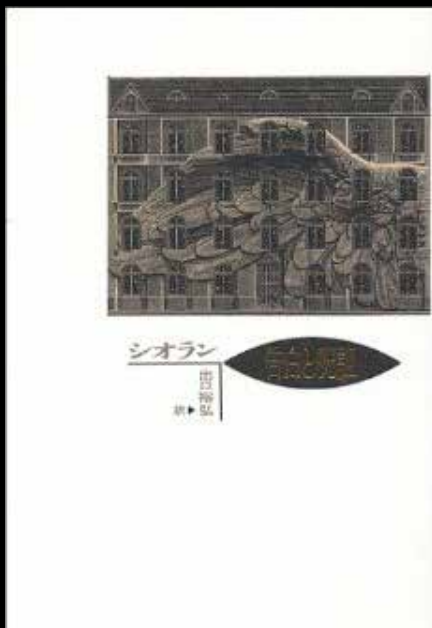
残り十文字を切ったあたりから、言語としてのギリギリの表現で書きすすめられるが、言葉を失うことによる「窒息感に似たような苦しさ」をリアルに体感することができる。



選者

教員
九天玄氣組

掘
数
正



告白と呪詛

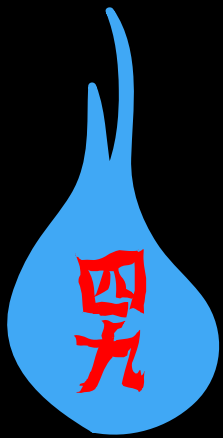
エミール・シオラン（紀伊國屋書店）

ルーマニアの思想家エミール・ミシェル・シオランによる最後の著作。強烈な皮肉と毒舌に満ち満ちたアフォリズムの断章からなる。母国ルーマニアでは禁書扱い（らしい）。

ここがこわい！

「未開社会では、老人たちをいささか早すぎる段階で始末してしまうようだが、文明社会のほうは、逆に、老人たちにおもねった上、過食を強いる。未来社会はどうだろう。一点の疑いもなく、前者を手本とするにちがいない。」

本書を支配する生や社会への嫌悪感が読者に恐怖を通り越した絶望的な気分へ陥れる。



選者

有座まさよ
折り紙建築士



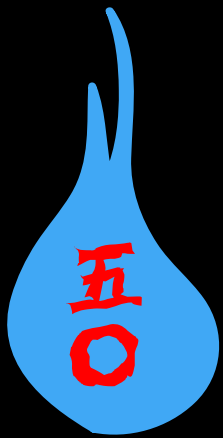
ジューマンジ

クリス・バン・オールスバーグ、
へんみまさなお訳（ほるぷ出版）

ボードゲームを見つけた兄弟は早速始める。
ゲームの中に書かれていることは現実のこと
となる。

ここがこわい！

「ダニエルのわきの下には、細長い箱がかかえられていたのです。」



選者

有座まさよ
折り紙建築士



夜がくるまでは

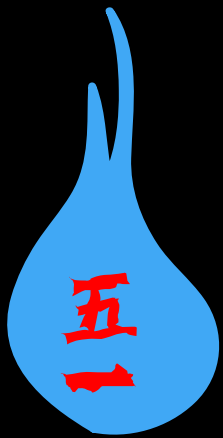
イヴ・バンティング作、デイヴィッド・ウィーズナー絵、
江國 香織（ブックローン出版）

夜になると動き出す石像たち。

～ガーゴイル、建物の屋根やひさしからつき出した
奇怪な人間や動物のかたちをした雨どい。夜が
くるまでは、彼らのからっぽの目はまたたきもし
ない。が、夜の闇の中では…。

ここがこわい！

「彼らは人間が好きじゃないんだ。彼らをこんなふうにつくった人間、
鳩たちのくる梁のうえ高く、彼らを吸えつけた人間が。」



選者

光澤大志

精神科看護師
九天玄氣組



屍鬼

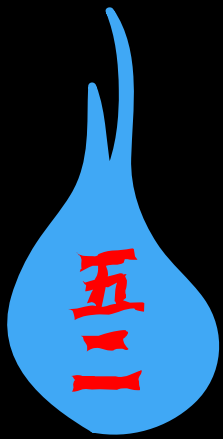
小野不由美（新潮社）

人口わずか千三百、三方を尾根に囲まれ、未だ古い因習と同衾する外場村。猛暑に襲われた夏、悲劇は唐突に幕を開けた。山深い集落で発見された三体の腐乱死体。周りには無数の肉片が、まるで獣が蹂躪したかのように散乱していた――。

闇夜をついて越して来た謎の家族は、連続する不審死とどう関わっているのか。殺人か、未知の疫病か、それとも……。超弩級の恐怖が夜の帳を侵食し始めた。

ここがこわい！

これは、もう、住民たちが次々と原因不明の死を迎えていくシーンが不気味で怖い。村にやってきた謎の住人たちと、村人の死の関係性がわからず不気味に死に続けていくところはホラーチックな感覚で怖い。さらに、物語の後半部。暴徒化した村人たちの狂気と残虐性は、ホラーとはまた違う感覚で恐怖を感じる。ホラー的な恐怖から暴徒化した集団の恐怖へと、恐怖をスライドさせていく手法は見事だと思う。



選者

太田剛

編集工学機動隊キア代表



★真夏の書齋・百物語 2013年、
ベストホラー大賞!!!

津山三十人殺し 最後の真相

石川 清 (ミリオン出版)

昭和13年、今から75年前に起きた「津山三十人殺し」。横溝正史『八つ墓村』のモデルになり、日本犯罪史上稀にみる“惨劇”といわれた。未だに関係者が口を閉ざす中、事件のキーマン・寺井ゆり子が口を開き、アメリカで発見された「津山事件報告書」が真相を明らかに!?

ここがこわい!

なんというか退廃的というか破滅的というか、どんな淫猥・快樂・残酷・アブノーマルな状況を前にしても、自分の存在を突き放し、さらに深みに堕ちていこうとするマチコ。その自己の魂の居場所を求めて彷徨うマチコが、最後にたどり着いた平穏の場があまりに怖い!

五三

選者

花田宏毅

箱崎水族館喫茶室 マスター

おぞましい二人

エドワード・ゴーリー、柴田元幸 翻訳
(河出書房新社)



1965年にイギリスで発覚した「ムーアズ殺人事件」をモチーフにした絵本。イギリスで二人の男女が4年にあたり5人の子供を残酷に殺して荒野(ムーア)に埋めていた事実が明らかとなった。「もう何年も本の中で子供たちを殺してきた」と自ら言うエドワード・ゴーリーが、この現実起きた悲惨な事件によって心底動揺させられ、描いたのが本書である。

ここがこわい!

淡々と描かれていくところ…

五四

選者

浦澤
一正



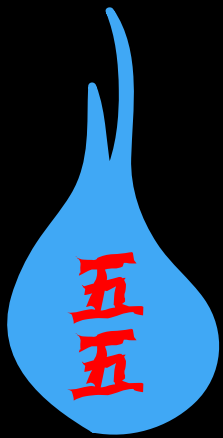
冥途のお客

佐藤愛子（文春文庫）

岐阜の幽霊住宅で江原啓之氏が見たもの、狐霊に憑依された女性の奇妙な話、夜中に金縛りにあった初体験、父・紅緑の霊が語ったこと、霊能者の優劣…。「この世よりもあの世の友達の方が多くなってしまった」佐藤愛子さんの、怖くて切ない霊との交遊録、第二弾。安らかな死のためには、どう生きたらいいかを考える一冊。

ここがこわい！

佐藤さんだけあって、単なる怪談話ではなく、文章が抜群、深み、ユーモアもあり、面白いです。若き日の江原啓之さんが、霊能者として登場し、オツと思わせたりも…



選者

壺中堂
オカルト倶楽部
九天玄氣組

新部 健太郎



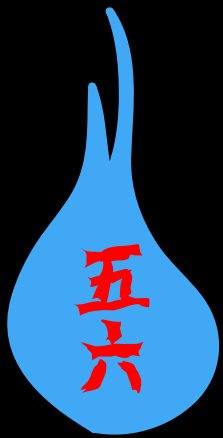
『遊鬼』 わが師、わが友

白洲正子（新潮文庫）

六十年前、梅若家の能舞台に現れた「鹿島清兵衛」の、そのぎょろりとした目つき。幼少期の白洲正子の脳裏には、「怖い」という印象だけが残る。その後、芸妓「ポン太」とのいきさつ他、後年の正子は、その「鹿島清兵衛」の持つ不思議な魅力に、記憶の中、惹き付けられて行く。その「清兵衛」こそ森鷗外の短編「百物語」に登場する「飾磨屋勝兵衛」その人だった。

ここがこわい！

怖いというよりは何か人間本質の、とてもシビアな側面を突きつけられる様な存在感が、「鹿島清兵衛」のその魅力は、人によっては恐ろしく感じるかもしれないな、といった話。



選者

有座まさよ
折り紙建築士



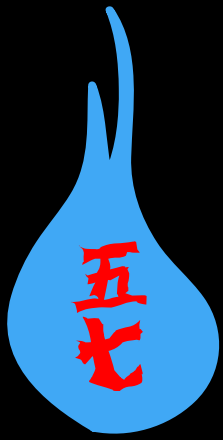
注文の多い料理店

宮沢賢治 作、しまだむつこ 絵
(偕成社、ほか多数)

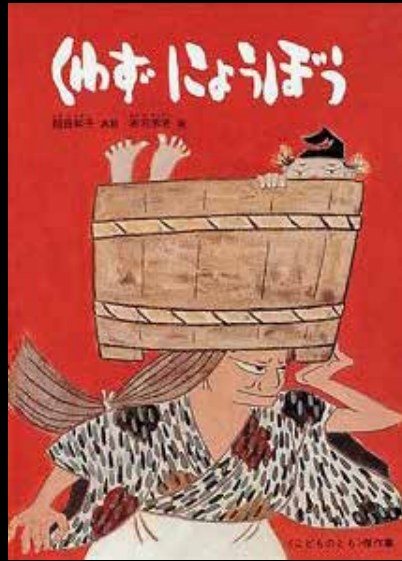
「肥った方歓迎」「顔にクリームを塗ってください」東京から狩りに来た二人の紳士が山奥で入った「山猫軒」は、客に次々と注文をつける奇妙なレストランだった…。諷刺と幻想に満ちた宮沢賢治の代表作のひとつ。

ここがこわい！

「たくさんの注文というのは、向こうがこっちに注文をしているんだよ。」
「しかし、さっき1ぺん紙くずのようになった二人の顔だけは、東京に帰っても、お湯に入っても、もとのとおりになおりませんでした。」



選者
有座まさよ
折り紙建築士



くわすにようぼう

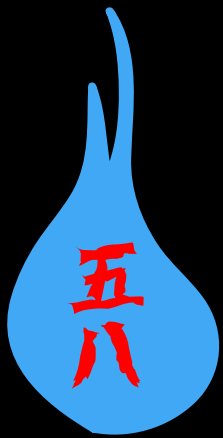
稲田和子再話、赤羽末吉画（福音館書店）

飯くわぬ女房が山姥だった話。

～よく働いて、飯をくわない女房がほしい。
そんな欲ばり男の所へ本当に飯をくわない嫁
がきましたが…

ここがこわい！

「長い髪の毛をほどいたら頭のとっぺんから、
大きな口がザックと出てきたんだと」



選者

財津晶子



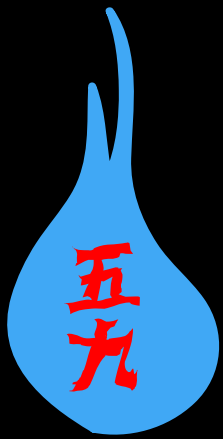
遠野物語

柳田 國男 (岩波文庫)

陸中遠野郷に伝わる口碑を簡古かつ気品ある文章で書きとめた『遠野物語』は柳田学の展開を画する記念碑的労作である。

ここがこわい！

妖怪の話が好きなので読んでおこうと思い途中までしか読めていませんが、津波にあったあと残った人達が出会った幽霊の話が怖さもありましたが、なんだかせつない話にも感じました。



選者

前田光久
九天玄氣組 (千葉)



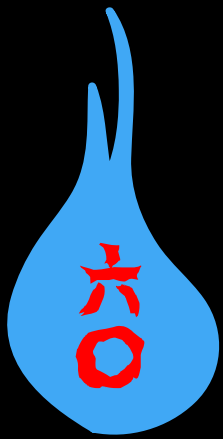
『翁』 —OKINA

夢枕 獏 (角川書店)

美貌の貴公子・光の君の妻である葵の上に、妖しいものが取り憑く。六条御息所の生霊かと思われたが、どうやらそれだけではないらしい。並の陰陽師では歯がたたず、光の君はついに、外法の陰陽師・蘆屋道満に調伏を依頼するが—。「獣の首をした王が、黄金の盃で黄金の酒を飲みながら哭いている—これ、なんだ？」葵の上に憑いたものが出したこの謎々は、一体何を意味しているのか。いまだかつてない源氏物語が、幕をあける。

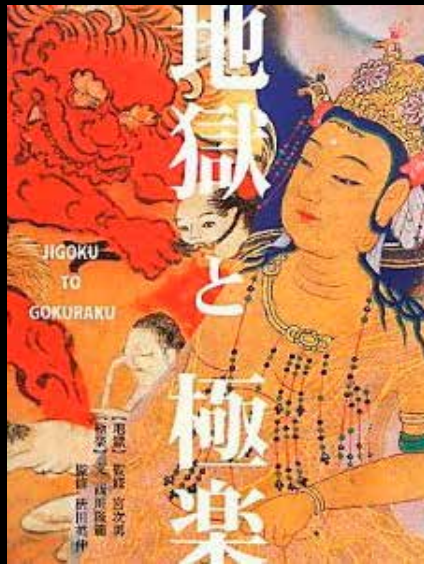
ここがこわい！

…怖い所は、言わぬが花。昨年来、『鬼来迎』を演じて以来、親鸞さんの、『地獄も一定の住みかぞかし』に得心している。



選者

中野由紀昌
瓢箪座・九天玄氣組



地獄と極楽

(風濤社)

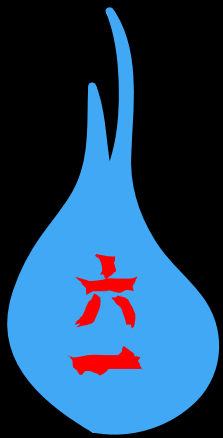
「地獄」(白仁成昭 著, 宮次男 著):
死んだ五平が生き返り、
見てきた地獄の恐ろしさを語る。

「極楽」(西川隆範 著):
迷い込んだ僕と女の子が極楽を旅する。

※「地獄」「極楽」本が文庫本サイズで一冊にまとまった本。

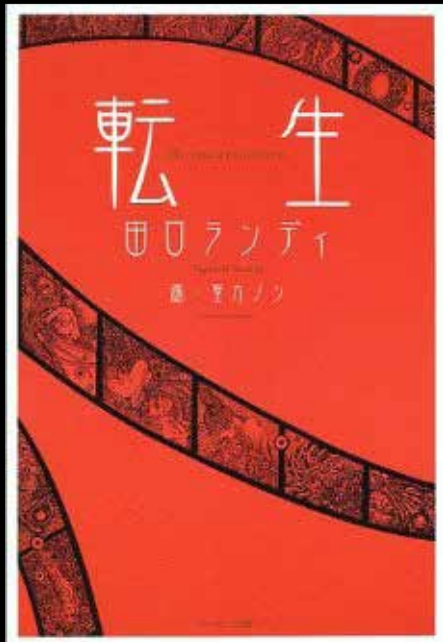
ここがこわい!

「地獄」は子どものしつけにいいと言われるが、半端なく恐怖心を植えつける。一方の「極楽」はこの世の幸せの極地を描いている。2つセットでバランスとっているようだけれど、あまりにも極端で、どちらもそら恐ろしく感じます。



選者

中野由紀昌
瓢箪座・九天玄氣組



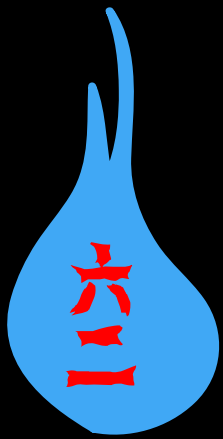
転生

田口ランディ作、篁（タカムラ）カノン絵
（サンマーク出版）

母親の胎内で殺された私は、奇形の鳥、撲殺される捨て犬、黒い雨に襲われる少女と転生を繰り返す。絶望に打ちひしがれたかのように見える世界の中で、それでも延々と繰り返される命。「いったい何のためこのように転生していくのか」と問いかける私はやがて分解され、水に流れ、形あるものから解放されて世界に同化していく。

ここがこわい！

抜けられない転生の輪、気の遠くなる物語…。ミステリアスで緻密な挿し絵が田口ランディの綴る物語と絶妙にからみ合い、いつの間にかめくるめく輪廻の旅へと巻き込まれていきます。



選者

内倉須磨子

(有) スーパーハンド
九天玄氣組 (北九州)



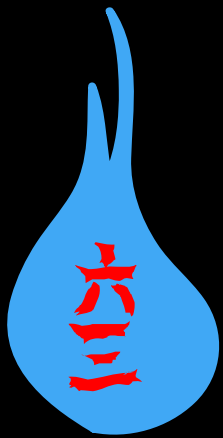
竹内健怪奇幻想シリーズ 世界でいちばんコワイ話

竹内健 作、
宇野亜喜良 表紙・イラストレーション (新書館)

短編集です。この本に収められている物語は、“少年”を主人公とした6篇。「薔薇色のプロローグ」から始まり、「幻想黙示録 第一章 赤色の鳥」「第二章 青色の船」「第三章 黄色の虫」「第四章 銀色の海」「第五章 紫色の丘」「第六章 藍色の沼」、そして、「黒色のエピローグ」に至るまで、さまざまに色を変えながら、さまざまな少年達の眼に映った、さまざまな世界が描かれています。

ここがこわい!

どれもこれも不思議な話ばかりで、木に人間の赤ちゃんが突ったり、少年が少女のからだに貝殻を移植したり、おばあさんの眼球をくり抜いて矢車草をさしたりするものです。



選者

内倉 須磨子

(有) スーパーハンド
九天玄氣組 (北九州)



竹内健怪奇幻想シリーズ

「世界でいちばん孤独な話」 薔薇の埋葬

竹内健 作、

藤本蒼 表紙・イラストレーション (新書館)

短編集です。「銀色のコレクション」「暗黒星雲」「死神一〇六号」「燈台は空の彼方へ」「ガラスの犯罪」「地獄のフリッパー」「氷河人の復讐」「救世主は春風に乗って」の8篇。父も母も、全ての蝉や蝶と共に深く湖に埋葬した少年が夜明けに見たものは？血みどろな少年の孤独のコレクション。

ここがこわい！

蝉や蝶と同じように父も母も、採取されてしまうところ！

六四

選者

有座まさよ
折り紙建築士



落語絵本『ばけものつかい』

川端誠作（クレヨンハウス）

化け物が出るお屋敷に引っ越してきたご隠居が、出てくる化け物をこき使うものだから、化け物が暇願いを出すという話。

ここがこわい！

「あたくしも、ほうぼう化けて出てますが、あなた様ほど、化け物使いの荒いお方は、ございませんで」

六五

選者

有座まさよ
折り紙建築士



じごくのそうべえ

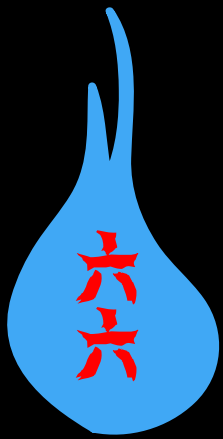
たしまゆきひこ作（童心社）

地獄八景七者戯の絵本版。

～軽業師のそうべえが綱渡りに失敗し、なんと地獄に送られることになってしまいました。そこで出会った仲間たちとともに、閻魔大王の前で大暴れ！ 上方落語「地獄八景七者の戯」を題材にしたロングセラー絵本。

ここがこわい！

「お医者さんと呼ばに行ったらお医者さんもかぜをこしらして、
死んでしもうたいうし、たいへんやったんやで。」



選者

有座まさよ
折り紙建築士



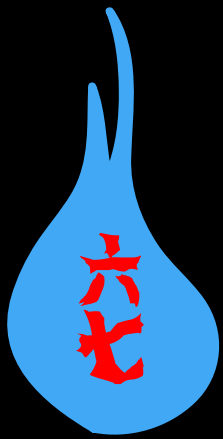
蜘蛛の糸

芥川龍之介 作、遠山繁年 絵 (偕成社)

現世での悪事が原因で地獄へ堕ちた男カンダタの運命を、その生前の人生も盛り込みつつファンタジックに綴る。

ここがこわい！

「こら、罪人ども。この蜘蛛の糸は己のものだぞ。お前たちは一体誰に尋いて、のぼって来た。下りろ。下りろ。」「しかし極楽の蓮池の蓮は、少しもそんな事には頓着いたしません。…何ともいえない好い匂いが、絶間なくあたりへ溢れて居ります。」



選者

寺田悠人



杜子春

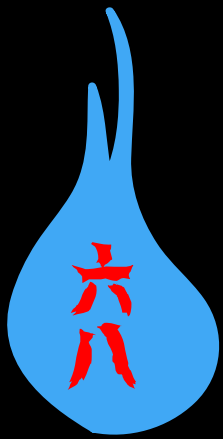
芥川龍之介 作（新潮文庫）

昔の中国にいた杜子春という若者が仙人によって様々な体験をさせられ人生においてある種の悟りを得る。

～大金持ちになることに愛想がついた杜子春は、平凡な人間として自然のなかで生きる幸福を見つける話。

ここがこわい！

鉄冠子が杜子春に与える試練がとにかく聞いてるだけでも痛い・辛い話で、人間の精神の限界が試されるのような怖ろしさを感じました。



選者

新部 健太郎

壺中堂
オカルト倶楽部
九天玄氣組



中国怪奇小説集

岡本綺堂（光文社文庫）

初版は『支那怪奇小説集』昭和十年 サイレン社刊。この世に恨みを持って出る日本の幽霊とは異なり、中国の幽霊は一見なんの所縁もない所にあられる。そこが怖い。

百物語の体よろしく、全二百二十種を六朝から清にいたる各時代ごとに語り手を変え淡々と語りつくす。その淡々さが怖いというよりもオツ。

ここがこわい！

好きな短編を一話挙げれば、例えば「首の飛ぶ女」。秦の時代に南方に落頭民という人種があった。その頭が良く飛ぶのである云々…。ある人が試みに銅盤を（頭の飛んだ後の）胴体にかぶせて置いたところ、首はいつまでも戻る事が出来ないで、その女は遂に死んだという。中国怪異譚の醍醐味は、この素っ気なさに在るのだとは南伸坊氏談。

六九

選者

料理研究家
山際千津枝



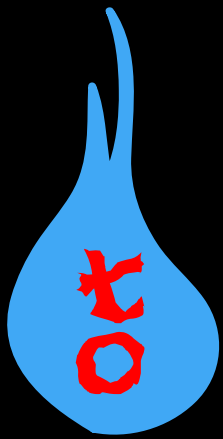
死後の恋

夢野久作現代教養文庫—夢野久作傑作選

舞台はロシアのウラジオ。自らを元軍人と称するキチガイとして名高い紳士が、名門貴族の元同僚とその人の所有していた至高の宝石にまつわる因果な体験を物語る。

ここがこわい！

…三十幾粒の宝石は、赤軍がよく持っている口径の大きい猟銃を使ったらしく、空砲に籠めて、その下腹部にうちこんであるのでした。私が草原を匍っているうちに耳にした二発の銃声は、その音だったのでしょ…そのこのところの皮と肉が破れ開いて、内部から掌ほどの青白い臓腑がダラリ垂れ下がっている。その表面に血まみれたダイヤ、紅玉（ルビー）、青玉（サファイヤ）、黄玉（トパーズ）のかずかずがキラキラと光りながら粘りついておりました。



選者

料理研究家
山際千津枝



ルルとミミ

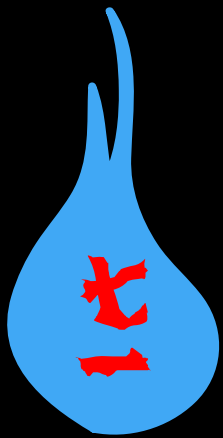
夢野久作

幻想性の色濃い作風で知られる昭和初期の作家、夢野久作の短編小説。湖の水が黒く濁ると悲しいことが起こるといふ言い伝えのある村。

ルルとミミの兄妹の父親は、村唯一の鐘職人。ある時新しい鐘を作るが音が鳴らず、それを恥ずかしく思った父親は湖に身投げしてしまう。そして、その時の湖は、黒く濁っていた。

ここがこわい！

兄妹の切なくも悲しい物語 兄妹の沈んだ湖の底から鐘の音が…。
これ子供に読ませていいのだろうか…。復刻してほしい。



選者

オカルト倶楽部
松永 進



『私の彼は意味がない』収録の

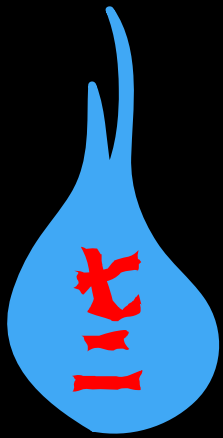
『安定と人間』

蛭子能収（青林堂）

安定を手に入れたマイホームパパが、世の恵まれない人を救済しにいくエゴなお節介の先には日々無計画にセックスをする夫婦がいた。産まれたら酔潰けにして、たまに食べるけど減らないから御馳走してやるというとブツ切りの赤ん坊を皿に盛ってくる。安定パパは世の良識の代表として咎めるが、逆に一喝されてしまう。

ここがこわい！

(夫婦が長崎弁なのは蛭子の原風景からの影響からかもしれない。)



選者
オカルト倶楽部
松永 進



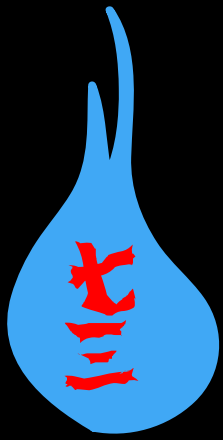
世界妖怪図鑑

佐藤有文 (立風書房ジャガーボックス)

アフリカの森にいて投げ掛けられた質問に答えられないと、体をあべこべに付け替えられる。夜になると体や内蔵が裏返しになり脳ミソを吸いにくる妖怪モズマやボッスの地獄図等々…。

ここがこわい!

子供心に夢に見そうな絵柄の数々に恐怖し魅了された。



選者

松永 進
オカルト倶楽部



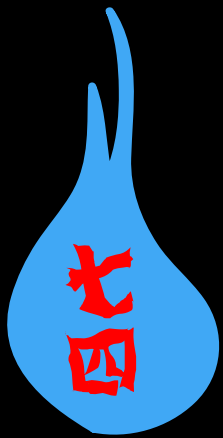
ダークサイド・オブ・ロック 2

山崎智之総監修 (洋泉社)

サタニズムから思想は北欧神話信奉へ、裏返せば白人至上主義となりナチズムに繋がる今のブラックメタルというエネルギー体を紐解く。

ここがこわい！

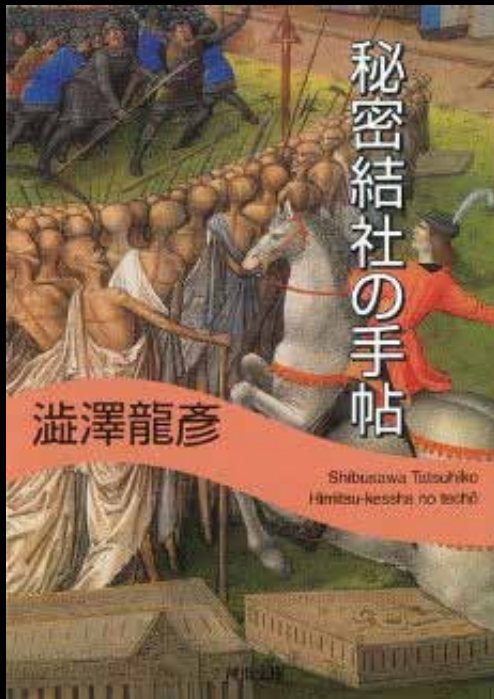
本全体はロックの歴史と思想、カントリーミュージックの真実など楽曲の明るさ暗さなどという表面的な事に隠れた暗部に触れている。音は振動、空間を震えさせ細胞や鼓動など振動するものに共鳴してゆく。知らぬ間に共鳴する場合もある。太古、音で精霊と会話し天に願いを伝えたように、原初から音は力を持っている。音階の組み合わせに惑わされず、真実を見抜ける人間がどれだけいるのだろうか。音の力を危険な思想に利用した、みいられた悲惨な末路と未来を考えさせられる。



選者

新部 健太郎

壺中堂
オカルト倶楽部
九天玄氣組



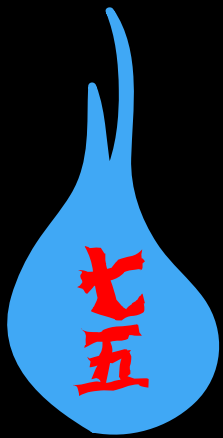
秘密結社の手帳

澁澤 龍彦 (河出文庫)

澁澤龍彦の手帳シリーズ。原始社会からギリシャローマ。グノーシスからフリーメーソン。東西各地のあらゆる秘密結社を網羅した古典。こうした秘密結社には、人間のある種の業の深さを感じ、またある意味怖いです。

ここがこわい！

個人的には殺人秘密結社「豹男」団体(円谷プロとかの悪の組織っぽい)の写真が怖い。



選者 山際 千津枝
料理研究家



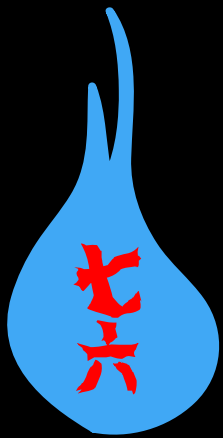
恐怖——心の闇に棲む幽霊

ラッシュ ,Jr. ドージア(角川春樹事務所)

その時、脳で何が起きているのか？口の渴き、波打つ鼓動など、ありとあらゆる恐怖の原因と兆候を、魅力的な語り口で最新の科学をもとに細部まで余すところなく明らかにした、ピューリッツァー賞作家が描く「恐怖」の真実。

ここがこわい！

恐怖そのとき人間の脳で何が起っておるのか…。科学的に説明されると怖い。恐怖心は生き残りのために重要な心の動きらしいけど。ピューリッツァ賞もとった良い作家です。



選者

料理研究家
山際千津枝



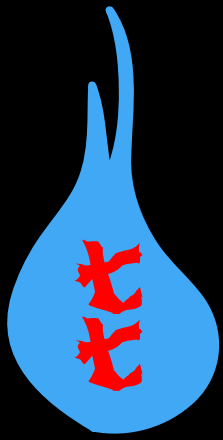
百頭女 (ひやくとうおんな)

マックス・エルンスト

シュルレアリスムを代表する画家マックス・エルンストが1929年にコラージュ・ロマンと銘打って発表した画集であり小説でもあるような実験的な書物なので、古い19世紀の挿絵本やカタログの木版画を切り抜き、貼り合わせて作った奇怪な物語が読者の思惑をはぐらかすように続いて行く。(千夜千冊 第1246夜『百頭女』より)

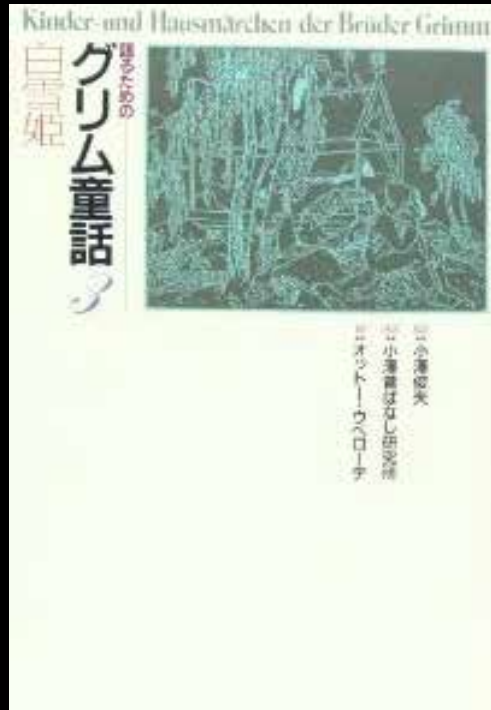
ここがこわい!

奇妙奇天烈な日常に誘います。



選者

有座まさよ
折り紙建築士



語るためのグリム童話③

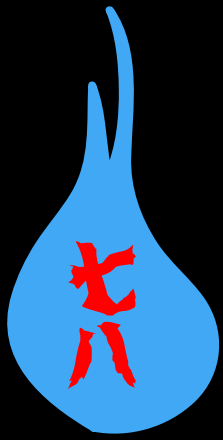
白雪姫

小澤俊夫 (小峰書店)

グリム童話は、第7版まで改定されています。
これは、第2版の翻訳で昔話の原型に近い。

ここがこわい!

不思議な鏡を持った女王は白雪姫の実母だったこと。



選者

有座まさよ
折り紙建築士



おやすみなさいトムさん

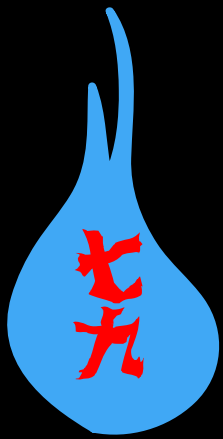
ミシェル・マゴリアン (評論社)

第二次世界大戦中英国のある疎開児童をめぐる話。

～小さな村に疎開してきた内気な少年ウィリーは、トム老人の家にあづけられたが…。厳しい戦時下にあっても、美しく素朴な自然と新しい友情の中で、自己を発見し成長してゆく少年の物語。

ここがこわい!

少年ウィルの母親の信じている神。



選者 有座 まさよ
折り紙建築士



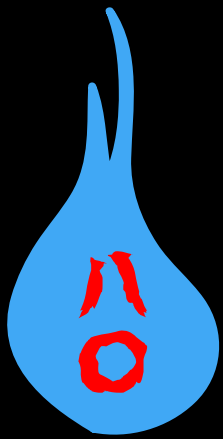
エルフギフト (上・下)

スーザン・プライス、金原瑞人訳 (ポプラ社)

ゲルマンの神々を信仰する人々とキリスト教を信じる人々の対立の中で一人の王が自分とエルフの間に生まれた息子エルフギフトを跡継ぎに指名して死んだ。血と欲望と裏切りのダーク・ファンタジー。

ここがこわい!

「骨だけになった手が、肉のついた手から杯を受け取る。生者の目玉が死者の空っぽの眼窩をのぞきこむ。それに答えて唇のある顔が歯をむき出して笑う。」



選者

越智

環



死ねばいいのに

京極夏彦（講談社文庫）

若い女性が自宅で絞殺体で発見されました。犯人はまだ捕まっていない、ある日、殺された女性の関係者に若い男が訪ねてきます。派遣先の上司で不倫相手・女性に嫉妬し嫌がらせを続けていた同僚・借金で生活し、借金のかたに女性をヤクザに売った実母・女性に飽きたヤクザから女性を払い下げられたもう一人のヤクザ などなど。若い男は、「女性はこんな目にあいながら "自分は幸せ" と言っていた。彼女がどんな人間か知りたい」そう言って、根掘り葉掘り聞きます。当然人々は逆上し自己弁護に走ります。

ここがこわい！

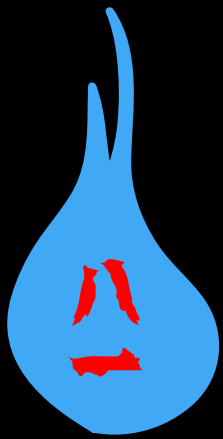
次ページに続く

若い男性はその人々に「死ねばいいのに」との言葉で、彼らのエゴイズムを認めざる負えないように突きつけます。このやり取りが続いたあとで、物語は大きく動き、さらなる人間の心の闇に読者を引きずり込みます。

「死ねばいいのに」という言葉がインパクトを持って使われていますが、本書の怖さはここではありません。

何よりも大きな怖さは、・エゴの積み重ねが、一人の人間を潰してしまえること・人間同士理解しあえないこと・異質なものに恐怖し攻撃する人間の限界 この三つです。この三つを、この表現しかないという確かな文章力で描き切っており、その深さに気づいた時には足元が崩れるような恐怖を感じることができます。推理小説ではなく、人間の業の深さと闇に迫る怪奇小説として読んでいただきたいです。また、女性の描写が非現実的だとの意見が時折聞かれます。

しかし、それは死んだ方が楽だと確信できるだけの苦しみを他人に与えられ、且つ耐えたことのない人の意見です。他人に与えられた死んだ方がマシな苦しみを耐えに耐えてに何とか小康状態に辿り着いた人は、この女性の描写を圧倒的な現実感を持って感じられるはずです。女性に現実感を感じられない方は、自分の想像以上の絶望が世の中に溢れていること、そして普通では考えられないことを望むほど人間性を疲弊させることに、深い恐怖を感じていただきたいです。



選者

石井梨香
九天玄氣組



斎藤家の核弾頭

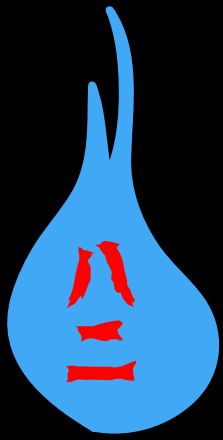
篠田節子（新潮文庫）

2075年の日本、国民一人一人の存在も行動も、国から管理されている時代。子どもの成長さえコントロールされている。国からの立ち退き命令に怒り、手製の核爆弾で国に宣戦布告をした斎藤家の物語。

登場人物が情けなかったり、設定が突飛すぎたりしてコメディという人もいる作品ですが…。

ここがこわい！

斎藤家の娘が、成長コントロールの失敗から巨大に成長しはじめ、次には急速に年をとって死んでいく。このことが斎藤家の救いに繋がるのだが、娘の止めようの無い成長ぶりが、1999年の東海村 JOC 臨界事故と重なって背筋が寒くなった。



選者

教員
九天玄氣組

堀
数正



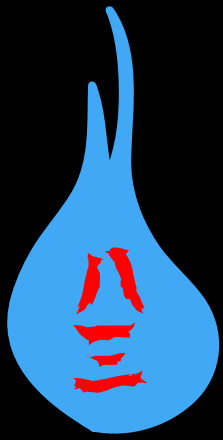
脱牛肉文明への挑戦

ジェレミー・リフキン (ダイヤモンド社)

本書は、人間とウシの関係の歴史的考察から始めて、近代文明の象徴たる畜牛複合社会（キャトル・コンプレックス）がいかに生態系を破壊し、発展途上国の生活を圧迫し、人類や地球の将来を危機に貶めているかを詳細に論じ、この危機的状态から脱出するために脱牛肉文明の実現を力強く叫ぶ近代文明批判の書物である。

ここがこわい！

世界で生産される穀物の三分之一が家畜（特にウシ）の飼料作物に充てられている点、高脂質の牛肉を生産するため、アマゾン川流域、北アフリカ、中央アメリカ等の原生林が大規模に切り開かれ、生態系の破滅・大規模な砂漠化・そこに住む人々の困窮と強制移住を招いている点、高脂質の牛肉を嗜好する食肉文化を謳歌する国々として、著者はアメリカ、ヨーロッパ、そして日本を挙げている点。全体として著者が指摘している事実がどれも衝撃的な内容であるとともに、自分の無知にも気づかされ、このようなことを「知らなかった」ということが一番怖いです。



選者

有座まさよ
折り紙建築士



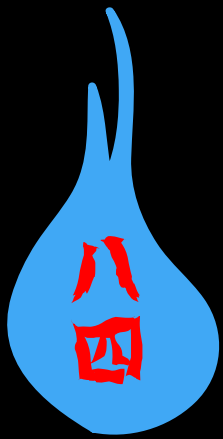
影ぼっこ

ブレイズ・サンドラール文、マーシャ・ブラウン絵、
おのえたかこ訳（ほるぷ出版）

アフリカの村のまじない師や語り手の話からイメージされた詩と絵の絵本。不気味に代わる影の精ともいうべき”影ぼっこ”。

ここがこわい！

アフリカの大自然に宿る陰の精が怖い！！



選者

有座まさよ
折り紙建築士



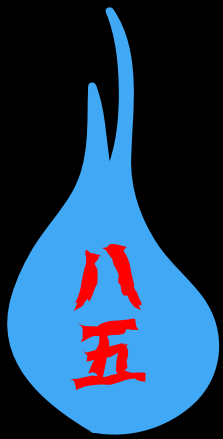
ミラーストーン 不思議な鏡

マイケル・パリン文、アラン・リー絵、
リチャード・シーモア制作、掛川恭子訳（岩波書店）

少年が鏡の世界に入って天才学者の命令で鏡石を探す旅に出る話。1ページおきのキラキラ鏡の絵と、繊細で不気味な描写絵に好奇心をそそられる。鏡石（ミラーストーン）とは、天才科学者が作り上げた、人間をそっくりそのまま映し出す鏡、外側だけでなく、内側までも映し出す鏡のこと。

ここがこわい！

読み手も鏡石に映る！！



選者

川崎隆章

ラジオ番組制作・
落語CDディレクター
九天玄氣組（東京）



現代民話考 8

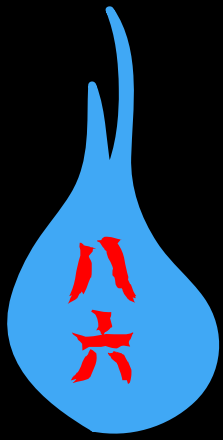
『ラジオ・テレビ局の笑い・怪談』

松谷みよ子（立風書房）

アナウンサー、ディレクター、プロデューサーなど放送関係者から聞き集めた証言集。放送現場で起きるさまざまなハプニングを「笑い」と「怪談」にわけてはいるが、放送関係者にとってはどれも「怖い話」の連続。

ここがこわい！

後半の「怪談」のパートもさることながら、前半部にも恐ろしい話が潜んでいる。たとえば、沖縄戦が終わろうとしていたころ「沖縄は間もなく全滅するだろう。次にアメリカ軍が上陸してうるのは九州だ。九州が戦場になるだろうから、その戦場放送をきみがやってくれ」という指示がでて、九州での戦略放送提案まで作成されていた、なんて話も掲載されている。(p54)。(p375-376) 東京・文化放送のスタッフの証言。二人がかりで番組編集をしていたら、一人が心臓発作で倒れ、救急車で運ばれていた。期限が迫っていたので残り一人で作業をすすめていたが、彼がぬぎ捨てていった靴が「トン、トン」と音を立て、なるはずがない電話のベルが鳴った。守衛室に問い合わせしてみると…。ちなみに、当時の文化放送の社屋は「若葉教会」という教会の建物を改造したもので、窓に十字架のステンドがあたり、柱に装飾があったりしました。



選者 有座まさよ
折り紙建築士



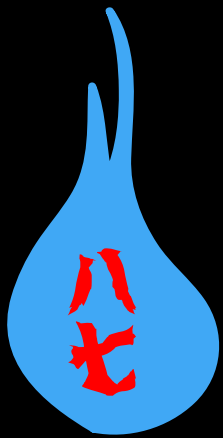
星どろぼう

アンドレア・ディノット文、アーノルド・ローベル絵、
やぎたよしこ訳（ほるぷ出版）

空の星を全部盗んだ泥棒とまた空に星を返す
までのお話。空に星を貼り付ける方法が光っ
ている。

ここがこわい！

夜空の星がぜ～んぶ盗まれたら…怖い！！



選者

有座まさよ
折り紙建築士



流刑の神々・精霊物語

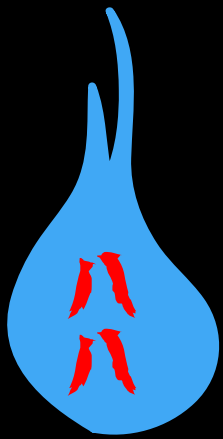
ハインリヒ・ハイネ著、小澤俊夫著訳（岩波文庫）

キリスト教が仮借ない非寛容性をもってヨーロッパを席卷していったとき、大陸古来の民間信仰はいかなる変容をしいられたか。

今から一世紀以上も前、歴史の暗部ともよぶべきこのテーマに早くも着目したハイネは、これら二篇のエッセーでギリシアの神々と古代ゲルマンの民族神たちの「その後」を限りない共感をこめて描いている。

ここがこわい！

自然信仰とキリスト教一神教の戦いの中で生まれた真実の魔女の恐ろしい話をちょっとしてみたい。小澤俊夫氏の解説は聞いた、この本は読んでいない。不勉強の私で出来るかな？



選者

有座まさよ
折り紙建築士



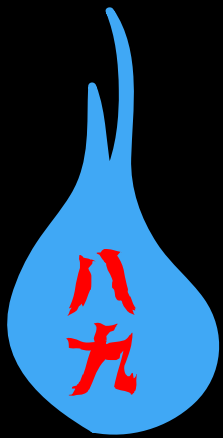
鬼が出た—たくさんのふしぎ傑作集

大西 廣・文、梶山俊夫ほか・絵（福音館書店）

鬼といえば、こわいもの、悪いものの代表のようにいわれていますが、そのほんとうの姿はあんがいしられていません。ふるい図像を手がかりに鬼本来の姿をさぐっていく『鬼の百科』。

ここがこわい！

キリスト教一神教と自然信仰の戦いとよく似ているのだけれど「地獄の鬼は、もとは羅刹というインドの神さまでした。」(P11)、「じつはこの鬼も、お釈迦さまをくるしめた魔物の一族で、仏教にはんたいするべつの宗教の神さまだったものです。」(P12) など、恐ろしいです。最後は、さすが福音館。「おにという日本語がもとは「かくれているもの」とう意味だったとまえにお話したことを思い出してください。どこの町や村にも、大むかしからの祖先の霊がねむっています。…」 鬼の話はこれに尽きるな。



選者

有座まさよ
折り紙建築士



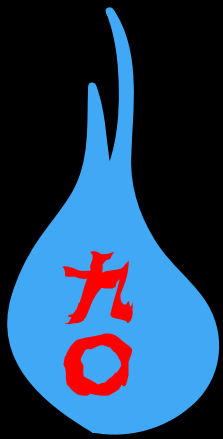
きつねのざんげ

安野光雅（岩崎書店）

偉大な偽善者になるのが狐の理想像でそれに精進していた”私”が、ハナに恋をして最高の偽善者になるべく人間になってしまった悲しく恐ろしいお話。安野光雅の自叙伝と言う人もいる。

ここがこわい！

大人のための絵本。



選者

太田剛

編集工学機動隊ギア代表



大江戸死体考～人斬り浅右衛門の時代

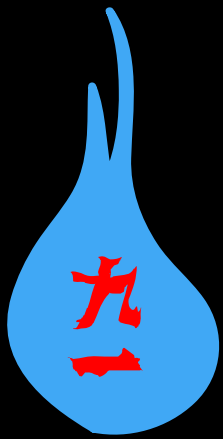
氏家幹人（平凡社）

花のお江戸は屍あふれる町だった！罪人の首斬り（処刑）と刀剣の試し斬りのプロフェッショナル、將軍家の「御様御用（おためしごよう）」を勤める“人斬り浅右衛門”を縦軸に、水死体の処理、生き胆をぬく話、検死マニュアルなど、江戸の街を死体から眺めた目鱗本。

ここがこわい！

浅右衛門家の独占販売が許されていた丸薬「人丹」の話も恐いが、第4章「胆（きも）を取る話」で紹介される「ひえもんどり」が超怖い！斬首されたばかりの死体から「生胆」を奪い合う競技が繰り広げられ、老若男女が我を忘れるほど興奮して観戦したというから怖い！

遊会録者の選書



選者
伊吹圭弘
敦賀遊会主宰者



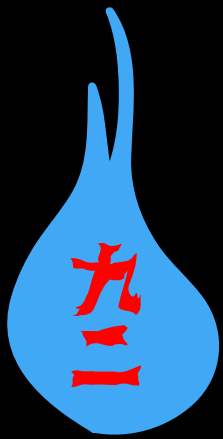
イニシエーション・ラブ

乾くるみ (文藝春秋)

この本の性質上、ネタバレらしなるので詳しく書けません。カバーから。"僕がマユに出会ったのは、代打で呼ばれた合コンの席。やがて僕らは恋に落ちて…。甘美でときにはほろ苦い青春のひとときを瑞々しい筆致で描いた青春小説…"と思いきや、最後から二行目（絶対に先に読まないで!）で、本書は全く違った物語に変貌する。"

ここがこわい!

中井英夫『虚無への供物』のバトンを受けようとして竹本健治『匣の中の失楽』が書かれ、そのオマージュに乾くるみが『匣の中』を書いたそうです。この、寡作な乾（ペンネームで、男性です）が書いた『イニシエーション・ラブ』であり、単なる推理小説ではないと思って読み始めました。最後に行きつくまでは単なる青春小説でしたが、ホントの最後にこう来るかと、人の魂胆の恐ろしさと言うか、マスキング、レトリックによる世界の変換がありました。まさか最後の二行で全てを書き換える魂胆があったとは、"じえじえ"です。



選者

伊吹圭弘
敦賀遊会 主宰者



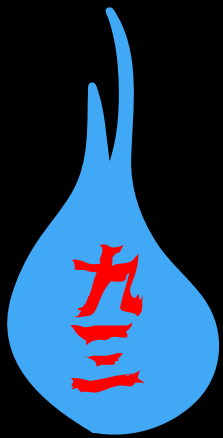
倉橋由美子の怪奇掌篇

倉橋由美子（新潮社）

この本には20篇の物語があります。それぞれのあらすじは書けませんが、全体には次のような作品群でお勧めしたい本です。この本に限らず、異界は遠く離れているのではなく、近く、隣に、紙一重で、接して、重なり合っているようにも思います。おどろおどろしくなく、ある感覚を思い出させてくれるものが多く、リアリズムでもなく上質の文学作品でありながら、エンターテインメントとして「ヒンヤリ」させられます。「獣の夢」「鬼女の面」などが怖さを思い出させます。

ここがこわい！

ラヴクラフトやポーやサキなどと共通するような感覚の物語だと思っています。この本は、仏教的な世界観があるようには思いますが。文字で書かれていない部分で「怖さ」が表わされていると思います。きっと読んだ直後よりも、忘れない程度に経て、思い返す時に「怖さ」を感じられるのだらうと思います。



選者
敦賀遊会 主宰者
伊吹圭弘



小泉八雲集

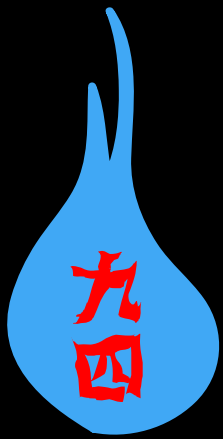
小泉八雲：ラフカディオ・ハーン（新潮社）

『怪談』の「耳なし芳一のはなし」、「雪おんな」などは誰でも知っているくらいに有名ですね。赤間が関の阿弥陀寺に住む盲目の琵琶法師である芳一が壇ノ浦の合戦の模様を巧みに語ることをやんごとなき身のお方が伝え聞いたことから、任職が留守をしなければならないある夜に、七霊に連れられて行く。後に知ることになる安徳天皇の御陵の前で芳一が弾き語ると感嘆のあまり、ひっそり静まりかえった。そして六日のあいだ琵琶を聞かせるように要請し、また他言を禁じた。

任職に問われ、芳一は出来事を語らざるを得ず、それを聞いた任職は、まぼろしでたぶらかされており八つ裂きにされてしまうので、自分は法事で留守にするが侍が連れに来てもしも声も出さずに座っておれと、芳一を守るために小僧と一緒に般若心経をからだ中に書いた。

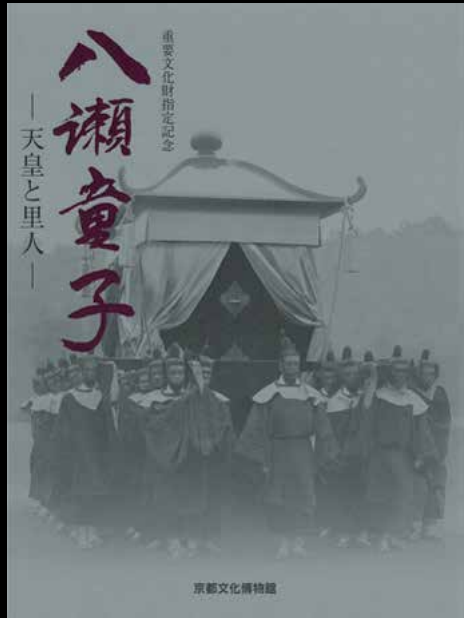
芳一を連れに侍が現れたが声も出さず座っていると1カ所だけ見える耳を、仰せのとおりにした証拠にと、引きちぎって帰っていった。芳一はどろどろと血が落ちるのを感じても声も出さず動かずにいた。寺に戻った任職は、小僧に任せた耳の辺りを確認しなかったことを悔やんだが、危険は去ったことを知る。

その後、そのことが彼を有名にし、高貴な方も芳一の琵琶を聞きにやってくるようになり、金持ちにもなった。



選者

能勢 伊勢雄
岡山遊会 主宰者
ペパーランド代表
写真家・著述家



八瀬童子 ～天皇と里人

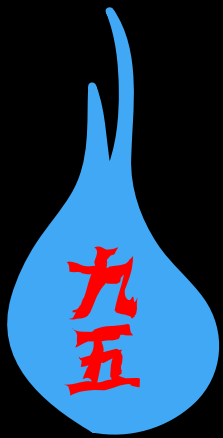
京都文化博物館（京都文化博物館）

天皇の棺を担ぐたことを職能とした部民の歴史資料が初めて公開された展覧会図録(2012年12月～1月)。

京都洛北比叡山のふもと八瀬。この幽境の地で千年以上もの間、独特の村落共同体をつくり、生活をしてきた人々が八瀬童子です。童子とは寺院に属して雑役に従事する人々であり、八瀬童子は延暦寺と密接に結びついていました。また彼らは庶民でありながら、天皇・公家・将軍といった時の権力者ともつながりが深く、明治時代以降は政府から天皇大礼(たいれい)・大喪(たいそう)の駕輿丁(かよちょう)(輿を担ぐ職)に任じられました。これら八瀬童子の特異な歩みを伝える資料が、2010年に国の重要文化財に指定されました。

ここがこわい！

宇野日出生、西山剛の論考もさることながら、第三章の「輿丁として」に掲載されている資料が怖い!!!!



選者

能勢 伊勢雄
岡山遊会 主宰者
ペパーランド代表
写真家・著述家



証言と遺言

福島菊次郎 (デイズジャパン)

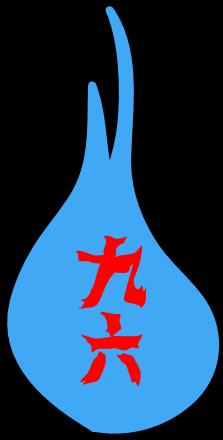
原爆被災から三里塚闘争までの写真記録集。

「伝説」の報道写真家 福島菊次郎 92 歳。

～国家権力を震撼させ続けた告発の写真群 孤高の
フォトジャーナリストの軌跡「これがぼくの遺作に
なるだろう」(福島菊次郎)

ここがこわい!

「60年前に写したこの写真を見るのは恐ろしい。」と著者自らも記しているように、
脳裏から忘れることの出来ない写真が怖い!!!!



選者

能勢 伊勢雄
岡山遊会 主宰者
ペパーランド代表
写真家・著述家



アフター・ザ・リアリティ

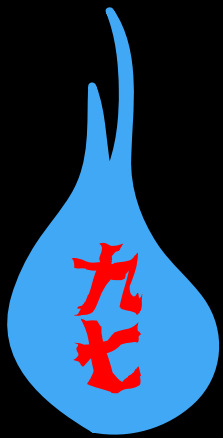
市原研太郎 (hiromiyoshi)

9.11以降に”リアリティ”に出会えるのか??
を問題にした美術・文化評論である。物象化されたイメージのスペクタクルを「無化」するための試論。

ここがこわい!

私達が常に現実と向き合うコンパクトな指南書である。

未来の不確定な現実である「リアリティ」の秘密を巡り語られる終末が怖い!!!!



選者

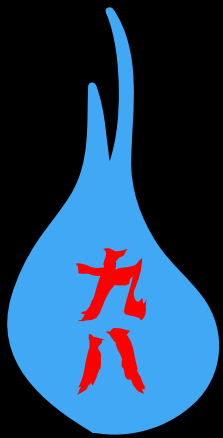
松岡正剛
編集工学研究所所長
イシス編集学校校長



山月記

中島 敦 (岩波文庫)

これは、官吏でありながら性は狷介で、みずから恃むところすこぶる厚いために詩人の道を選んだ李徴をとりあげて、詩を選んだにもかかわらず名声もあがらず、妻子からも疎まれた李徴が、ある旅の途中に汝水のほとりで発狂したまま帰らなくなった顛末を書いたもの、中国の『人虎伝』に素材を採っている。(千夜千冊 第361夜『李陵・弟子・名人伝』より)



選者

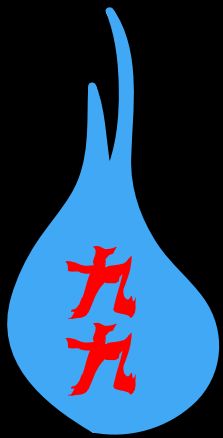
松岡正剛
編集工学研究所所長
イシス編集学校校長



蠅の王

ウィリアム・ゴールドディング (新潮文庫)

未来における大戦の最中、イギリスから疎開する少年たちの乗っていた飛行機が攻撃を受け、南太平洋の孤島に不時着した。大人のいない世界で、彼らは隊長を選び、平和な秩序だった生活を送るが、しだいに、心に巣食う獣性にめざめ、激しい内部対立から殺伐で陰惨な闘争へと駆りたてられてゆく…。



選者

松岡正剛
編集工学研究所所長
イシス編集学校校長



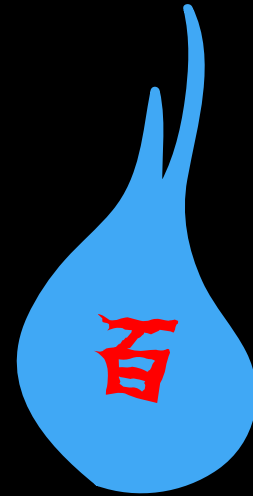
レベッカ

デュ・モーリア (新潮文庫)

物語は「わたし」によって語られていく。「わたし」はレベッカ亡きあとにデ・ウィンターの後妻となってマンダレイの屋敷に来た後妻である。小説の中では、この「わたし」には名前が与えられていない。

「わたし」は夫マキシム・デ・ウィンターに愛され請われて後妻に来たのだが、どうもマンダレイの広大な屋敷が重い。不気味なのだ。いろいろ感じるどころを組み立ててみると、「わたし」は先妻のレベッカが作りあげた空気や習慣がこの屋敷の隅々をびっしり占めていることに気がついてきた。ここには死者のレベッカがのしかかっているようなのだ。物語はこの見えないレベッカの策略のようなものを追って進んでいく。

そこへ、とんでもないことがおこる。仮想舞踏会の翌朝、海中に沈められていたヨットから埋葬されたはずのレベッカの死体が発見されたのである。これをきっかけに「わたし」はレベッカの死にまつわる驚くべき謎の一端を知っていくことになる。(千夜千冊 第265夜『レベッカ』より)



耳なし芳一

筑前琵琶 高木 青鳳